

ロシア・モスクワ、サンクトペテルブルク訪問

場所：ロシア鉄道病院本部、モスクワ臨床鉄道病院、オリンパス・モスクワ、サンクトペテルブルク臨床鉄道病院、サンクトペテルブルク腫瘍クリニック

期間：2019年8月5日～8月9日

モスクワのロシア鉄道病院本部とモスクワ臨床鉄道病院を訪問

今回、丸紅株式会社を中心となりロシア臨床鉄道病院グループに日本式の検診事業を導入する事業が始まることになり、当院は遠隔カンファレンスシステムを用いた医師教育で支援を行うことになったため、現地調査と今後の活動に関する議論を行うためロシアを訪れた。

初日は首都モスクワにあるロシア鉄道病院本部とモスクワ臨床鉄道病院を訪問した。鉄道病院グループの医療を管轄するジドコバ局長を始めとする幹部メンバーに九大病院の遠隔医療活動をプレゼンし、先方のニーズやこれからのコラボレーションについて討論を行った。彼らが用いている遠隔カンファレンスシステムについては確認ができなかったが、モスクワ臨床鉄道病院の内視鏡室を訪問して医師にインタビューを行い、同院では先進的な精密内視鏡検査や治療内視鏡は行っておらず、検診のために多くの内視鏡検査をこなさなければならないことが理解できた。

オリンパス・モスクワを訪問

8月7日の午前中はモスクワにあるオリンパスの・モスクワを訪問し、駐在している前田氏からロシアおよび中央アジア諸国における内視鏡の現状について話しを伺った。以前より日本から多くの内視鏡専門医が訪れて指導を行ってきたこともあり、日本の内視鏡診療のレベルが高いことはほぼ全員が知っていることがわかり、この状況は我々が遠隔医療教育を行ううえで追い風になると感じた。

サンクトペテルブルク市内の病院訪問

8月7日午後に鉄道でサンクトペテルブルグへ移動し、8日はサンクトペテルブルク臨床鉄道病院、9日はサンクトペテルブルク腫瘍クリニックを訪問した。いずれの施設にも、以前に当院で1ヶ月間の研修を行った内視鏡医が在籍しており、大変温かくもてなしてもらった。

サンクトペテルブルク臨床鉄道病院は3名の内視鏡医が夕方までかかって上部消化管内視鏡検査を行っている現状を知り、全体の検査の質を上げていくのは容易ではないと思われた。ただ、当院での研修後に早期胃癌を数例見つけたとの報告もあり、とてもうれしく感じた。

サンクトペテルブルク腫瘍クリニックは内視鏡室が改修中であったため、手術室の一角で検査を行っていたのが大変印象的であった。また、同院が毎年開催している外科のカンファレンスに九州大学病院から外科医と婦人科医を招待したいという提案を受け、これから両病院の交流を活性化していく一助となるように尽力しようと考えた。



ロシア鉄道病院本部にて



サンクトペテルブルク臨床鉄道病院

(森山 智彦)